

# 「第6次 台湾自然観察の旅」報告

土屋次男（犀陵中）



## 1 はじめに

SARSの影響で延期になっていた信州理科教育研究会「第6次台湾自然観察の旅」は、県下各地から17名の会員の参加を得て、2004年12月29日（水）～2005年1月3日（月）に3年ぶりに実施されました。今回は、台湾中部の嘉義県梅山郷碧湖村にある梅山大峡谷生態農場

を活動拠点として3泊、台北の劍潭海外青年活動中心に2泊して、調査班ごとに計画を立て、専門分野の研究を深めることができました。ここに、その概要を報告します。

調査にあたり、郭玉祥先生とご家族の皆様、江洪松先生と奥様の張奇香様、陳淵燦先生、張袖傑先生をはじめ、多くの方々のお世話をいただくことになりました。また、台湾自然観察の旅の実施に際しては、信州理科教育研究会から深いご理解とご支援を賜るとともに、本会誌に報告の機会をあたえていただきました。お世話になった方々、関係各位の皆様に対して深甚なる感謝の意を表します。

## 2 参加者

顧問：倉田 稔（信州理研元会長・昆虫）  
顧問：佐野 昌男（信州理研元会長・鳥類）  
団 長：井出 忠臣（豊田村立豊井小・地質）  
副 団 長：矢口 修（八坂村立八坂小・地質）  
秘 書 長：土屋 次男（長野市立犀陵中・魚類）  
副秘書長：松崎 善幸（駒ヶ根市立東伊那小・鳥類）

会 計：水内エツ子（長野市立篠ノ井東小・鳥類）  
会 計：田中 光枝（千曲市立東小・植物）  
報 告 書：宮下 健司（長野市立若穂中・民族）  
報 告 書：西澤 繁樹（小谷村立南小谷小・民族）  
保 健：永井 克己（上田市立豊殿小・民族）  
食 事：吉田 保晴（伊那市立伊那西小・鳥類）  
食 事：久保 文靖（小谷村立南小谷小・藻類）  
食 事：三溝 彩子（坂城町立南条小・鳥類）  
宿 舎：友野 増夫（浅科村立浅科中・植物）  
宿 舎：中山 厚志（立科町立立科小・植物）  
宿 舎：小澤 正行（小諸市立小諸東中・魚類）  
※（ ）内は平成16年度の在籍校

## 3 行程と日程の概略

12月29日（水） 晴れ

名古屋空港 発 9:30→中正空港 着 11:50

成田空港 発 10:00→中正空港 着 12:25

郭先生出迎えを受ける

中正空港 発 14:00 バスで移動

梅山でバス乗り換え

江先生、陳先生合流

大峡谷生態農場 着 20:00 夕食会

梅山大峡谷生態農場バンガローにて宿泊



《梅山大峡谷生態農場の眼下にそびえる半面山》

12月30日(木) 曇り  
宿舎 発 9:00 調査班ごとに終日調査。  
着 17:00 民族班は陳先生の案内で東埔へ  
調査に出かけ、21:00 到着。  
夕食後、江先生ご自慢のミニシ  
アターで、デジカメ画像を映し  
ながら各調査班の報告会を開く。

12月31日(金) 曇り  
宿舎 発 7:30~ 調査班ごとに時差をつけて車  
で調査地へ移動する。魚類班な  
どは、終日徒歩で調査した。  
着 17:00 夕食は食事班がゆでた年越しそ  
ば、郭先生奥様特製の年越し餃  
子等で盛大に年越しを祝う。台  
湾では記録的な寒さの中での年  
越しであった。

1月1日(火) 曇り  
朝食 8:00 食事班調達の餅などを味わいな  
がら新年を祝う。  
宿舎 発 9:00 大峡谷生態農場に別れを告げ、  
嘉義へ向けてバスで移動。  
嘉義 着 10:30 嘉義駅前散策・書店訪問  
発 12:10 台北へ向けて自強号で移動。  
台北駅着 15:40 土産品などの買い物をした後に  
MRT 劍潭駅へ  
宿舎 着 16:30 劍潭海外青年活動中心に着く。  
張先生・郭先生ご家族と夕食。  
夕食後、士林夜市など見学。

1月2日(水) 曇り  
3班に分かれて終日調査  
烏来班 台北南部の景勝地烏来へ  
基隆班 台北北部の漁港基隆、景勝地金山・野柳へ  
台北班 台北市内の観光  
宿舎 着 16:30 張先生・郭先生ご家族と夕食。  
夕食後、士林夜市など見学。

1月3日(木) 晴れ  
宿舎 発 8:00 バスで芝山公園へ移動  
芝山公園で台湾教育に尽力した  
先生方の慰霊碑に合掌する。  
中正空港 着 12:30

中正空港 発 13:30→成田空港 着 17:40  
中正空港 発 16:25→名古屋空港着 19:55

#### 4 調査内容の概要

調査は、地質、植物、昆虫、魚類、藻類、鳥類、民  
族の6つの専門分野ごとに行われた。

##### (1) 地質

今回の目的は、第3次の調査地であった草嶺山付近  
及び清水溪のその後を調査することにあつた。草嶺山  
は、5年前、台湾中部に発生したM7.7の大地震によ  
って一気に崩落し、東西に流れる清水溪を堰き止め  
た。上流には、6kmの堰止湖が誕生した。その後、下  
流に全く水を流さず、未だに満水の一途をたどると報  
告された堰止湖は、昨年7月の台風によって決壊し、  
当時の面影はない。今回の調査で最深50m、上流6  
kmまで土砂が堆積し水はなし。出現から2年で湖は  
埋まり、台風で崩壊した。崩壊後は土石流を発生させ  
た。その激しさを示す巨岩が川底に残されていた。宿  
泊・調査地とした梅山大峡谷には、横30m、縦20  
mもの巨石が運ばれてきていた。また、清水溪下流(竹  
山:南雲大橋)では、土石流が土手を越え被害をもた  
らしたとのこと、現在は新しい堤防が築かれていた。  
堰止湖は、現在、湖に積もった土砂が流れ出している。



《堰止湖に堆積した土砂》

##### (2) 植物

梅山大峡谷の宿舎近くでは王爺葵や大花曼陀羅、台  
湾山芙蓉の大きな花が確認できた。大きなシダのなか  
まである筆筒樹(写真)が印象的だった。また、ポイン  
セチア、アゲラタム、インパチェンスなど日本では

園芸種として知られる種が、道ばたに野生化し、普通に見られた。



《筆筒樹》

雲林縣の川原では象草が優先しており、オジギソウなどが確認できた。雲林縣古坑鄉樟湖國民小學では校内を訪問させていただき、子どもたちがカンファーを披露してくれるなど交流を持つことができた。

### (3) 昆虫



《アカギカメムシ》

今回の大峡谷での調査で、昆虫で目についたのは常

緑樹アカメガシワや、その他の常緑樹の上にいるマルカメムシ科のアカギカメムシを観て、その1匹を採れたことである。

体長2 cmほどで、胸背面は紅オレンジ色で、その中に胸背に8ヶ、背面に8ヶの黒点状紋があり、腹面にはするどい口吻が伸びていた。この口吻で樹液を吸う。

日本でも、奄美以南にはいるが、なかなかお目にかかれない。

蟻は大型のものは路上で8個体拾ったのにみで展翅中である。

### (4) 鳥類

梅山大峡谷で最初に出会った鳥は、クロヒヨドリ<紅嘴黒鶇>であった。文字通りであるが、嘴と脚が紅く、全身が真っ黒のヒヨドリである。我々の食事場所であるオープンカフェ、その周辺にある樹木に数羽から十数羽の群れで訪れ、賑やかに鳴き交わしながら木の実(ハクホウシ)を食べていた。鳴き声は、「啾〜啾〜」と聞こえ、猫の様な声を出すことがあった。



<群れで訪れるクロヒヨドリ>

### (5) 魚類

梅山大峡谷を流れる清水溪とその支流では、台湾の固有種である鯛魚や台湾石鱚をはじめ8種の魚類を確認した。中でも興味深かったのは平鰭鰍科の2種類の魚たちである。鰭が大きく横に広がり、平らな体形をしており、急流の中での生活に適していると考えられる。いずれも台湾の固有種であり、日本では見られない大変面白い魚である。今回の調査地のように台湾本来の大自然が残されている地域では、台湾固有の淡水

魚に出会うことが多く、島として分かれた後の台湾の歴史を感じさせられた。



《台湾櫻口鰍》



《短吻鎌柄魚》

## (6) 藻類



台湾中部の清水溪を中心に5カ所、北部の南勢溪で2カ所採集を行った。清水溪の上流部ではpHが8.3と高く、山の崩壊による泥水が流れていた。泥が積もった岩に緑藻や珪藻の糸状藻が発達していた。下流では泥が堆積した広い砂浜に生活排水のような白濁した水が流れ、巨大な珪藻の糸状藻が発達していた。烏来の南勢溪では河床から温泉が湧き翡翠色に水が変色し、緑藻が出現せず珪藻やラン藻のみの7種類しか出現できなかった。

## (7) 民族

台湾ブヌン族の調査

九州ほどの大きさの台湾には、漢民族とは異なるマレー系の先住民族が9部族生活している。今まで5回

の調査でアミ・ピュマ・ツォウ・タイヤル・パイワン・ルカイの6部族の調査を終え、今回はブヌン族の村を訪れて、その生活や文化を調査してきた。ブヌン族は東アジアの最高峰である玉山(3952メートル、日本名は新高山)の周辺に居住する畏族である。体格は比較的小柄で、かつては狩猟と焼畑による粟栽培を中心とする絵巻をもちながら、数々の章党語や「ハニト」と呼ばれるアミニズムや祖霊信仰に彩られ・美しい混声八部合唱のハーモニーを響かせる民族である。



《台湾ブヌン族の子どもたち信義郷東埔村にて》

## 5 おわりに

大峡谷生態農場には、胸がときめく自然素材があふれていました。来年度もこの旅を続

けていきます。初めての方も大歓迎ですので、ぜひご参加ください。



《大峡谷生態農場眼下を流れる清水溪の支流》